

横浜市教育委員会
定例会会議録

- 1 日 時 平成30年10月19日（金）午前10時00分
- 2 場 所 教育委員会会議室
- 3 出席者 鯉渕教育長 大場委員 間野委員 宮内委員 中村委員 森委員
- 4 欠席者 なし
- 5 議事日程 別紙のとおり
- 6 議事次第 別紙のとおり

教 育 委 員 会 定 例 会 議 事 日 程

平成 30 年 10 月 19 日（金）午前 10 時 00 分

- 1 会議録の承認
- 2 一般報告・その他報告事項
平成 30 年度よこはま教師塾「アイ・カレッジ」について
平成 30 年度横浜市立高等学校及び併設型中学校第三者評価結果について
- 3 審議案件
教委第 33 号議案 横浜市少年自然の家の指定管理者の指定に関する意見の申出について
教委第 34 号議案 給与の支給の遅延に係る損害賠償額の決定に関する意見の申出について
教委第 35 号議案 治療費保障に係る書類作成請求調停事件の調停に関する意見の申出について
教委第 36 号議案 道路陥没による自動車落輪事故に係る損害賠償額の決定に関する意見の申出について
- 4 その他

[開会時刻：午前10時00分]

鯉渕教育長

それでは、ただいまから、教育委員会定例会を開会いたします。

初めに、会議録の承認を行います。9月7日の会議録の署名者は間野委員と中村委員です。会議録につきましては、既にお手元に送付してございますが、字句の訂正を除き、承認してよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

鯉渕教育長

それでは、承認いたします。字句の訂正がございましたら、後ほど事務局までお伝えください。

なお、9月18日の教育委員会臨時会の会議録につきましては、準備中のため、次回以降に承認することといたします。

次に、議事日程に従いまして、教育次長から一般報告を行います。

小林教育次長

【一般報告】

1 市会関係

- 9/26 基本計画特別委員会（審査日程等協議・議案審査）
- 9/27 こども青少年・教育委員会
基本計画特別委員会こども青少年・教育分科会
- 10/3 基本計画特別委員会（採決）
- 10/4 本会議（第3日）議案議決、決算上程・決算特別委員会設置・付託
決算第一・決算第二特別委員会（審査日程等協議）
- 10/11 決算第一・決算第二特別委員会連合審査会（総合審査）
- 10/12 決算第一特別委員会（局別審査）

教育次長の小林です。それでは、報告いたします。

まず、市会関係ですが、9月26日に基本計画特別委員会が開催され、審査日程等の協議及び議案審査が行われました。

翌27日には、こども青少年・教育委員会が開催され、終了後引き続き、基本計画特別委員会こども青少年・教育分科会が開催されました。

10月3日には、基本計画特別委員会が開催され、採決が行われました。

翌4日には、本会議第3日目が開催され、議案議決、決算上程・決算特別委員会設置・付託が行われ、続けて、決算第一・決算第二特別委員会が開催され、審査日程等の協議が行われました。

10月11日には、決算第一・決算第二特別委員会連合審査会、総合審査が行われ、翌12日には、決算第一特別委員会、局別審査が行われました。

2 市教委関係

(1) 主な会議等

- 9/28 第59回横浜市立中学校・義務教育学校個別支援学級合同体育祭
- 10/2 よこはま子どもピースメッセンジャーによる教育長表敬訪問

(2) 報告事項

○平成30年度よこはま教師塾「アイ・カレッジ」について

○平成30年度横浜市立高等学校及び併設型中学校第三者評価結果について

次に、教育委員会関係の主な会議等ですが、9月28日に、第59回横浜市立中学校・義務教育学校個別支援学級合同体育祭が三ツ沢陸上競技場で開催され、鯉渕教育長、大場委員が出席しました。こちらは9月27日に開催される予定でしたが、雨天により順延となり、9月28日に開催されたものです。この順延により、当初予定されておりましたパラリンピアンをお迎えすることが残念ながらできなくなりましたが、当日は晴天に恵まれ、生徒たちが気持ちよさそうに競技する姿が見られました。

10月2日には、よこはま子どもピースメッセンジャーによる教育長表敬訪問が行われました。こちらは、7月に開催されました「よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト」で市長賞を受賞した小学生2名、中学生2名の4名が、10月14日からニューヨークの国際連合本部などを訪問することに先立ち、行われました。

次に、報告事項として、この後、所管課から2点報告させていただきます。まず、1点目ですが、平成30年度よこはま教師塾「アイ・カレッジ」について、次に、2点目ですが、平成30年度横浜市立高等学校及び併設型中学校第三者評価結果について、報告させていただきます。

私からの報告は以上です。

鯉渕教育長

報告が終了いたしました。御質問等はございますか。

特になければ、平成30年度よこはま教師塾「アイ・カレッジ」について、所管課から報告いたします。

渋谷教職員人事部長

教職員人事部長の渋谷です。平成30年度よこはま教師塾「アイ・カレッジ」につきまして、入塾選考が終わり、これから講座が始まりますので、今回報告させていただきます。内容につきましては、教職員育成課長から説明させていただきます。

立田教職員育成課長

教職員育成課長の立田でございます。大学生などを対象に横浜市の教員を養成する、よこはま教師塾「アイ・カレッジ」の取組は平成19年から始まりまして、既に700名以上が本市の教員になっております。今年度の取組が今月から始まりますので、説明させていただきます。

まず、資料の1番の「(1)入塾申込者数」についてですが、近年減少傾向にあります。この傾向に歯止めをかけるべく、今年度は大学を訪問、又、花咲研修室を会場として延べ29回の説明会やオープン講座を実施しました。内容も一方的な説明だけではなく、その中で現役の塾生と参加者が交流をする機会ですとか、実際の講座に参加してもらい機会を設けるなど、アイ・カレッジの取組と塾生募集の周知を図ってまいりましたが、結果としては前年度に比べまして、中学校区分では増加したものの、全体では22名の減少となっております。

「(2)第一次試験」ですが、書類審査と論文で7月に実施いたしました。論文1は今日的な教育課題に関する資料を基に論述をするもので、論文2はアイ・カレッジで身につけたい力は何かということについて、自らの考えを記述するものでした。

「(3)第二次試験」は一次試験の合格者を対象に9月上旬に実施しまして、個人面接、そして集団面接を通して、教師としての資質や能力などについて評価

をしました。

最終的な合格者数につきましては、(4) 番に掲げましたように、全体で95名、学校種や教科ごとの内訳はそれぞれこのように示したとおりです。また、入塾倍率は(5) 番に掲げましたように、全体で2.11倍となっております。

それでは、裏面を御覧ください。合格者の属性・年齢構成などは(6) 番と(7) 番のとおりです。現役の大学生がその大部分を占めております。

なお、臨任・非常勤の中で、先週発表があった教員採用試験に合格した場合には、アイ・カレッジに入塾する必要がなくなりますので、実際の入塾者は合格者数よりも若干減ります。現在、最終的な入塾者の確定作業を行っているところです。

「2 講座内容等」についてですが、「(1) 講座内容」、「(2) 指導体制」に記載したとおり、指導教官や指導主事などの指導支援の下に、新しいことや少し難しい課題に挑戦をする「背伸びの経験」、その後の内省・振り返り、そして課題設定というプロセスを重視してカリキュラムを編成しております。

また、(1) のアに掲げたように、講座の大部分は花咲研修室で行いますが、このほかに横浜市立学校でのインターンシップや授業参観などを通して塾生が主体的・対話的に学ぶことができるようにしております。

「(3) 実施期間」ですが、今月21日の日曜日からスタートしまして、来年6月15日までとなっております、延べ23回実施いたします。

最後に、「(4) 改善点」についてですが、例えばeラーニングによる予習と講座を組み合わせた、いわゆる反転学習、またタブレット端末を用いてお互いの模擬授業の様子を撮影して学び合うなど、主体的に学習する機会を一層増やしていくこと、また小学校英語の教科化、インクルーシブ教育、プログラミング教育などに対応できるような内容も準備しております。併せて高校生を対象としたオープンカレッジの開催など、前年度までの取組を踏まえて見直しを図っているところでございます。

説明は以上です。

鯉淵教育長

説明が終了しましたが、御質問等はございますか。

森委員

御説明ありがとうございます。2つございまして、1つが昨年度からの改善というところにございましたけれども、インクルーシブ教育が入っていることにつきまして、これが強化されているということはとても良いことだと思いました。具体的にどんな内容がその中に含まれているのか、伺いたいと思いました。個別級だけでなく、どのクラスでもそういった特別支援の知識を踏まえた先生が増えていくことはとても大事なことだと思いますし、観点がどのように織り込まれているかということに大変関心を持っております。また、外国籍の方も増えていると思いますし、そういったことも織り込まれているかどうかについても確認したいと思いました。

2点目もそこに関連していることで、1番の入塾申込者数で、平成30年度塾生の特別支援学校に棒線が入っているのはゼロということかと思ったのですが、※2に「平成29年度塾生まで、特別支援学校区分として実施」と補足として書いてありますけれども、年々減っていることと、今年ゼロであったということと、※印の補足について、もう少し詳しく教えていただけないかと思いました。よろしくお願いたします。

立田教職員育

御質問をありがとうございます。まず1点目の講座の内容ですが、インクルー

成課長	<p>シブ教育としましては、特別支援学校の現職の教員を講座に招きまして、それぞれのグループに現職の教員に入っただいて、特別支援学校でどういった学びが行われているかということ具体的に講座の中で説明していただいたり、塾生と学び合う機会を設けたりしております。また、その中で特別支援学校が一般学校に関わってどういった支援をしているかということも含めまして、一般の小中学校でもそういったものをどのように生かしていけるかということも講座の中に組み込んでおります。</p> <p>また、外国につながるお子さんについて、どういった形で講座に生かしているかということにつきましては、必須ではなく希望者に対してということですが、昨年度は日本語指導拠点施設の「ひまわり」の見学を、塾生を対象に実施しております。</p> <p>2点目の募集区分ですが、御指摘のとおり平成30年度から特別支援学校の区分はなくしております。これにつきましては、特別支援学校の教員を目指す方も小学校・中学校の免許状取得が基本となっております。また、例年、特別支援学校の枠は本当に2名、3名という若干名でして、それに対して教官、あるいは指導主事等、人的な手配をするのが、なかなか費用等の関係で難しさもございまして、今年度につきましては、区分としては特別支援学校の募集は行っておりませんが、だからといって決して特別支援教育、またインクルーシブ教育を軽視しているものではないということでございます。</p>
森委員	<p>ということは、それを希望する人が年々減っているということですか。</p>
立田教職員育成課長	<p>元々よこはま教師塾として平成19年にスタートしたときには、小学校の教員志望者のみを対象としておりました。その後、中学校に区分を広げまして、直近までは高等学校、そして特別支援学校の教員志望者も対象としておりましたが、高等学校につきましては採用試験自体が中学校と一体的に募集しておりますので、現在、区分としては中学校の中に入れております。特別支援学校の区分を今年度からなくした理由につきましては、先ほど説明したとおりです。</p>
鯉淵教育長	<p>ほかにございますか。</p>
宮内委員	<p>前年度からの改善点の中に、教員志望の学生を増やすために高校生を対象としたオープンカレッジの開催とありますが、具体的に何人ぐらいの受講生を対象に、どのようなことをやっているのかという質問です。教師になりたいという人たちを一人でも増やすことが大事。有為な青少年たちが教職を目指す風土を作っていかなければいけないと思います。また、何よりもその風土をつくること一番は、素敵な先生に出会うことですが、素敵な先生ばかりではないというのが現状です。どうやってリクルートしているのかに興味があります。</p>
立田教職員育成課長	<p>御質問ありがとうございます。まさに今現在どのような形でやっていくかということを検討している段階ではありますが、アイ・カレッジの塾生は、基本的には大学3年生以上になりますけれども、大学1・2年生にもオープン講座ということで、見学、あるいは一定の体験をしていただくという機会を設けております。それを高校生にまで広げていくというイメージで、具体的には教員を目指す市立高校の生徒、そして市内にある県立、あるいは私学にも呼びかけていく予定で、現在その広げ方について最終的に検討しているところでございます。</p>

宮内委員	ということは、まだ開催はしていないわけですね。
立田教職員育成課長	はい。昨年度までは、これは行っておりません。今年度からの初めての試みとして、今計画をしているところです。
宮内委員	ぜひ意識的に募集活動をして、各高校でこういった塾、オープンカレッジがあることを周知させ、参加を促すムード作りに努力していただきたいと思います。
立田教職員育成課長	ありがとうございます。高校生には様々な将来の選択肢があるかと思いますが、横浜で教師をやるということの魅力については、できるだけ早い段階から伝えていければと考えております。
鯉淵教育長	ほかにはよろしいでしょうか。
中村委員	横浜以外の都市でもアイ・カレッジのような取組をたくさんやっています。耳にしたところで、ある都市の場合、非常に形から入るので、学生の個性が潰れているのではないかというような批判も出て、それで人数が減っているというような話も聞いています。横浜の場合は、幸いにそういう話は聞いておりませんが、これからの取組として、やはり教育ビジョンにも多様性を尊重するというようなことがうたわれていますので、ぜひ教師の多様性も尊重していただきたいと思います。もちろん専門的な知識ですとか、教師としての資質という部分でしっかり指導していただくことも大事なのですが、教師像は1つだけではないと思いますので、ぜひ学生の個性、いい面を生かしつつ育てていくというように取り組んでいただけたらありがたいと思います。お願いします。
立田教職員育成課長	<p>ありがとうございます。学生につきましては、30以上の大学から迎え入れております。教員養成系の大学関係者に先日伺いましたところ、どうしても教員養成系は同じようなタイプの学生が集まる傾向にあります。この教師塾アイ・カレッジで様々な学生、そして実際に学校現場で働いている臨任や非常勤の教員と接する機会のあることが大きな学びになっており、まさに多様性というものに触れることができているという話もいただいております。</p> <p>また、御指摘いただきましたように、採用試験に受かるためといった位置付けではございませんので、塾生には、例えば旅行をすることか、友達と語り合うとか、そういった学生生活を充実させることも長い視野で見たときに、教職に就く上で役立つということも常々伝えております。</p>
鯉淵教育長	よろしいでしょうか。ほかに御質問がなければ、次の平成30年度横浜市立高等学校及び併設型中学校第三者評価結果について、所管課から報告いたします。
奥田国際教育等担当部長	<p>国際教育等担当部長の奥田でございます。</p> <p>平成30年度横浜市立高等学校及び併設型中学校第三者評価につきまして、訪問調査を本年6月に実施いたしました。評価者の皆様方の御意見の取りまとめが終了いたしましたので、報告させていただきます。詳細な説明につきましては、高校教育課長から御説明申し上げます。</p>
西村高校教育課長	おはようございます。高校教育課長の西村でございます。よろしく申し上げます。

今、部長からありましたとおり、市立高等学校及び併設型中学校におきましては、3年から5年の間に1回は第三者の方々に評価をしていただいております。本年度は、桜丘高校は6月20日、金沢高校は6月25日に訪問していただきまして、評価をいただきました。評価者のお名前につきましては、2番にあるとおりでございます。

それでは、評価結果につきまして、冊子を使わせていただきまして、御説明申し上げます。

「第三者評価結果」の最初の1ページ、2ページにつきましては、学校評価の流れでございます。1ページにあります図につきましては、どの学校でも行っている自己評価のPDCAの流れの中に第三者評価の位置付けを描いている図でございます。第三者評価につきましては、前年度の自己評価結果を基に訪問していただいております。

それでは、3ページ以降の結果につきまして、御報告を申し上げます。先ほど申し上げましたとおり、桜丘高校と金沢高校の2校の概要でございますが、両校ともに全日制課程の普通科高校でございます。桜丘高校につきましては、本年度、創立90周年式典を行いました。金沢高校につきましては昭和26年創立と、両校とも古い部類に入る学校でございます。どちらも24クラス、950名余の生徒たちが学んでおります。

それでは、4ページ以降を見ていただければと思います。まず初めに、両校の第三者評価をやるに当たりまして、第三者の方々にお願いしたことがあります。それは、大きく3つの項目です。そこにあります「第2期横浜市教育振興基本計画の推進状況」、「教育活動の状況」、「学校経営の状況」という3つの状況について共通項目を設けまして、評価していただきました。それから、「いじめへの対応」、「施設・設備」、「総合所見」ということで御意見をまとめていただいております。

それでは、まず初めに桜丘高校の「(1)第2期横浜市教育振興基本計画の推進状況」でございます。重点施策の取組が目標以上に進んでいるかどうかということで評価をいただいております。「グローバル人材の育成」、「特色ある高校づくり」、「生徒一人ひとりの能力を最大限に伸ばす教育の充実」につきまして評価をいただきました。桜丘高校につきましては、Aの数が非常に多くなっていると思います。「グローバル人材の育成」でいえば、国際交流等、様々な試みが成果を上げてきています。「特色ある高校づくり」につきましては、進学指導重点校としての取組も充実してきました。それから、ミドルリーダーを中心として組織的になされているというようなことが評価されたようです。「生徒一人ひとりの能力を最大限に伸ばす教育の充実」におきましても、生徒の評価も見ながら評価していただきましたが、個に応じた指導がされています。今、大学入試等でeポートフォリオの話題が出てきていますが、学校では既にポートフォリオを作成していて、生徒たちが自分の進路を自分で考えるところを評価していただきました。

続きまして、「(2)教育活動の状況」につきましては、「教育課程」においては中期学校経営方針、「教科指導」におきましてはそれぞれの教科の授業評価、それから「進路指導」という3つの観点で見ていただきました。「教育課程」につきましては、おおむねAということでございます。「教科指導」につきましてはBが2つありました。これにつきましては、アクティブラーニングといましようか、主体的・対話的で深い学びを積極的に取り入れているというようなところで授業改善を評価していただきました。「進路指導」につきましても、特色と重なるところもございまして、進路データの蓄積や工夫を評価していただ

きました。また、保護者からの評価もこの点については非常に高いことが、第三者評価の方々の目にとまったところです。

「(3) 学校経営の状況」でございますが、7ページから3項目、「教育目標等の設定・実施」、「組織運営及び教職員研修」、「保護者・地域等との連携協力」という面で評価していただきました。「教育目標等の設定・実施」、「保護者・地域等との連携協力」は、3人の評価者の方々は全てAという評価をしていただきました。「組織運営及び教職員研修」におきまして、研修の成果を見える化することができるかどうかということ、校外研修や研究にさらに挑戦してほしい旨の評価をいただきました。

それから、「いじめへの対応」と「施設・設備」、「総合所見」につきましては、次ページの8ページから10ページまで書かれています。これにつきましては、評価点という形でなく、文章で御意見をいただきました。これについては最後に申し上げますが、少し我々のほうも工夫があればよかったと反省しております。

まず、「(4) いじめへの対応」でございますが、おおむね評価していただいております。特に2番目の御意見にあるとおり、このような形で、今、桜丘高校はいじめに関する取組をしています。特に③に書いてありますが、各学年の主任が委員として組織しているいじめ防止委員会を使って素早く対応できる体制を構築しており、そういう体制が整っているということではあります。ただ、まだまだ認知したときの具体的な対応を示せるものがないのではないかという御指摘もありました。

それから、「施設・設備」につきましては、丁寧に管理されている、非常にきれいに使っているということではあります。老朽化への対応については早急に必要な御意見もいただきました。また、ICTを活用できる教育環境というようなものの整備も必要であろうということで御意見をいただいております。

「総合所見」につきましては、今それぞれの項目の中でお話しさせていただきましたが、桜丘高校の多種多様な取組は、生徒の学習力・人間力をバランスよく育て、高めることに大変有用であるというような感想をいただいております。

続きまして、11ページから金沢高校の評価でございます。金沢高校につきましても同じ観点で見ていただきました。最後の1項目だけ金沢高校と桜丘高校で違いますが、おおむね同じ項目で評価していただきました。

「(1) 第2期横浜市教育振興基本計画の推進状況」は11ページから12ページの中段まであるわけですが、「グローバル人材の育成」、「特色ある高校づくり」、「生徒一人ひとりの能力を最大限に伸ばす教育の充実」という点につきましては、学校の目標をほぼ達成しているということで、B評価が多く見られました。ただ、文章を読んでおると、「グローバル人材の育成」におきましても新たな取組が実施され始めているけれども、まだまだ活動が特定されているため、全教員が実践することが望ましい、そういうことを期待したいというような御意見でございます。それから、「特色ある高校づくり」につきましても、特進プログラムやキャリア教育を見据えたR-CAP等を新たに導入するというようなことを評価していただいておりますが、さらに効果検証を行いつつ、効果的な取組になることを期待したいという意味で、Bという評価が多かったように思います。次の12ページにあります「生徒一人ひとりの能力を最大限に伸ばす教育の充実」におきましても、B・B・Aということで、おおむね評価されたと思っております。教員のさらなる指導力に期待したいということです。ここでは、他の学校にない各学年の授業ガイドが充実しているということが評価されたようです。

それから、「(2) 教育活動の状況」につきましても、「教育課程」、「教科指導」、「進路指導」と3項目に分けて評価していただきました。これも先ほどの評価と全く同じB・B・Aでございます。「教育課程」、「教科指導」、「進路指導」につきましては、先ほどの「特色のある高校づくり」と合致するところもございまして、文章表現等も同じような形になっているのではないかと思います。

それから、「(3) 学校経営の状況」は13ページ以降になっております。「教育目標等の設定・実施」、「組織運営及び教職員研修」、「危機管理」ということで、金沢高校は「危機管理」を新たにみていただきました。13ページの下段にございまして、「教育目標等の設定・実施」につきましては3人の方がオールB、「組織運営及び教職員研修」につきましてはB・B・A、「危機管理」につきまして、防災計画・防犯計画は学校の実態を踏まえた計画であり、訓練が適切に行われているかということの評価していただきました。B・C・C、特に生徒に避難経路が周知されていない、また防犯訓練等の指導があまり実施されていないということで、Cの評価をいただきましたので、学校にはさらに指導していかなければならない状況です。

具体的な表現で評価されているのは次ページの14ページでございます。特に「危機管理」についての2番目の御意見の中に、金沢高校の周りは大学のみでございますけれども、近隣の学校や事業所等と連携して避難訓練を行うなどの実効性のある防災教育をもっと実行すべきだというようなことや、避難訓練の時期を早い時期に行って、新入生にも伝えたほうがいいのではないかということ、避難経路図に関しては、今は教室に貼ってあるようですが、廊下などの見えるところにも幾つかあったほうがよいというような評価でございます。

それから、次の15ページ、16ページにつきましては、桜丘高校と同じように、「いじめへの対応」、「施設・設備」、「総合所見」という形で評価を表現していただきました。

「いじめへの対応」につきましては、情報共有体制は整備されていますが、初期対応に結びつく体制の整備をさらに進めてほしいということでした。

「施設・整備」につきましては、桜丘高校と全く同じような状況の中で、ICT環境の整備は必要不可欠であるというような御意見をいただいております。それから、耐震工事はできておりますが、老朽化等の不具合の多いところが散見されたということも御意見としてありました。

「総合所見」はそこに書いてありますが、教員たちが一生懸命やっているのはいいのですけれども、後ろから3番目のところで、働き方改革の意味でも、教員の善意に支えられている部分に依存する体制は改善が必要だというような御意見をいただいております。金沢高校は土曜・日曜に自習室を開放しておりますが、その際の監督管理などの教員の働き方について指摘していただいたものと思っております。

以上、長くなりましたが報告させていただきます。よろしく申し上げます。

鯉淵教育長

説明が終了しましたが、御質問等はございますか。

森委員

御説明ありがとうございます。こういった評価を100%やるというのはとても難しいことだと重々理解しておりますし、こういった形で生徒による評価と保護者による評価、地域の方と、かつ第三者の評価というように何層にも重ねて評価しており、多角的な評価があるということはとても良いことだとお聞きしながら思いました。それを踏まえて資料を拝見する中で幾つか思ったことがございました。

ので、質問というよりはコメントに近いものになりますけれども、意見を述べさせていただきます。

1つが教育活動の状況の教科指導というところです。評価の観点の文言で少し気になったところがございます、「生徒の学力の実態を把握し、身に付けさせたい学力の定着を」と書いてあります。これも中村委員やいろいろな方の御意見を聞きたいところでもございますが、本人が身に付けたい学力という、子供が主体となるような表現になっていったほうがいいのではないかと思います。学校が身に付けさせたいということ以上に子供を主にした評価の観点という、もうそういう時代になってきているのではないかと思いますので、今後観点を考えるときにぜひ御検討をいただければと思います。どちらかというとなら全体的に「学校の目標が」、「学校が」というところが主になっているような印象を受けたので、そのように思いました。

あと、そういった観点で10ページの2つ目の矢印のところ。「校内で会った生徒の挨拶や身だしなみにとても好感を持った。授業に対する姿勢も男女の区別なく協力しあい、素直に指示に従っていてよかった」と書いてありました。

「素直に指示に従っていてよかった」とございますが、どちらかというとなら評価の観点としては子供が自分の意見をしっかり言えていたとか、自主的に意見を交換し合うことができているというほうが、学校の評価としてはありがたい姿だと思います。

あとは次世代を担うグローバル人材の育成のためにどんな取組をしているかということが観点の1つにございました。例えば11ページの一番上に、英語などは書いてありますが、これからの評価の観点を考えるときにSDGsですとか、多様性ですとか、そういった観点ももう少し織り込んでいって、高校ですので、そのあたりをもっと促進していくような評価の観点というのを、英語以外にも入れていただけたらと思います。

長くなってごめんなさい。最後に、いじめについては子供たちからも第三者の評価からも比較的高い評価だったということでしたけれども、15ページにございますいじめへの対応についての3点目の矢印の「ホームルームで」と始まり、「いじめについての設問でも比較的高い評価になっている」と結ばれておりますが、比較的高い評価ではない方がどの学校でも必ず少数いると思います。どちらかというとならそこに目を向けて、少数の声は平均すると埋もれてしまうのですが、いじめにつきましては特にその少数のところに焦点を当てて、みんなで、学校も危機感を持っていこうというメッセージが今後さらに表現されていくといいのではないかと感じました。

以上でございます。

鯉淵教育長

質問ではありませんでしたが、何かそちらもコメントはありますか。

西村高校教育課長

ありがとうございます。今、委員からお話いただいたとおり、評価の観点につきましてもは考えていきたいと本当に思います。今まさにSDGsの話も出たり、子供たちの学び方も変わってきていることは事実ですので、評価の観点を変えながら、第三者評価が有効に使用できるように考えていきたいとしたいと思います。ありがとうございます。

鯉淵教育長

ほかに何か御意見・御質問のある方はいらっしゃいますか。

大場委員

冒頭、私が聞き漏らしてしまったのですが、第三者評価が回ってくるのは5年

に1回ですか。

西村高校教育
課長
大場委員

3年から5年です。

伺っておきたいと思ったのは、3年前に第三者評価の方から御指摘をいただいた項目をどう受け止めたのか、代表的な改善例がもしあれば、それを聞かせていただきたいと思います。毎年のPDCAの中でももちろん改善すべき点は改善されてきているのではないかという気はしますが、外部評価の指摘に関しての対応に特徴的なものがあれば、一つ伺っておきたいと思います。

それから、先週プライベートでたまたま宮城県の大川小学校へ久しぶりに行ってきたのですが、やはり気になったのは、金沢高校でC評価が2つあって、避難ルートの徹底というのは大事なことですし、これは桜丘高校もどのような状況なのか、こちらは評価表には出てきませんが、この2校に限らず、避難ルートの徹底というのは大きな課題だろうと思います。決して金沢高校がCだったからということでもなく、日常的に避難ルートの徹底ということについては力を尽くしてほしいと思いました。これは意見です。

西村高校教育
課長

ありがとうございます。まず、避難ルートにつきましては4月の段階で、学校訪問で指導主事が行くときに避難経路等についての確認は教育委員会としてもしております。さらに学校のほうで子供たちがまだまだそれを理解していないようであれば、さらに充実させていきたいと思います。

それから、委員から御質問いただいた、前にこの2校についてやった評価からどのくらい変わったのかというお話ですが、ちょうど桜丘高校と金沢高校は3年前に行いました。そのときに第三者として入っていただいた方1名ずつに、この両校に入っていただきました。特にどちらの高校も進学指導重点校として教育委員会が指定しています。特色ある高校づくりとして、進路指導を中心とした学校づくりということですが、その中で評価は両校とも、第三者評価の方々の評価はBからAに上がっていました。特に桜丘高校につきましては、組織の機能化という話が3年前にあったわけですが、今回はミドルリーダーを中心に機能してきているという評価をいただきましたので、比較できる場所なのではないかと思えます。さらに、今委員がおっしゃったように、見えるような評価の取りまとめも今後検討していきたいと思えます。ありがとうございます

鯉淵教育長

ほかに何か御意見はございますか。

宮内委員

まず、森委員がおっしゃった、評価の観点を見直すべきだというのは、全くそのとおりだと思います。素直に指示に従っている子が多いから日本はおかしくなっているのであって、やはり自分で考える自主・自立ということを行っています。そちらの観点から評価してもらおうということを徹底していくべきだろうと考えます。

意見というか質問ですが、こういった評価制度というのはどうしても主観が混じりますし、また桜丘高校の評価者3の人はAをたくさん出します。1の人は厳しく、金沢高校の評価者3の人は結構Aを出している。いろいろな方がおられますし、またその基準も違うので、主観的であることはやむを得ないと思えます。しかるに、主観的であってもこういった第三者評価制度というのを設けることによって、現場の緊張感は増すということで、こういった制度は改善しながら良いものにしていったらよいと考えております。

質問ですが、こういった評価をした後、現場の責任者なり担当者なりにどういったフィードバックをする機会が与えられているのでしょうか。例えば、企業の監査でも監査をして一方的に通知をするのではなく、こういった改善点があるという指摘します。それで、また現場のほうから「いや、そうは言うけど、これは無理なのよ」ということから新しい発見がなされて、いい解決策が議論されるということはよくあります。フィードバックなり、対話のチャンスをどのように工夫して設営しているかという質問であります。

西村高校教育
課長

ありがとうございます。まず、本日この会議が終わった後に、ホームページで全体的に発表いたしますが、学校につきましては、第三者評価者の方々と学校の校長、副校長、教員等々に懇談の形で当日の評価は話されていて、意見交換会というような形でもやっております。まとめた後につきましては、両校にこれを持っていきまして、事務局といたしましても出た評価の話をしながら、学校への対応をしていきたいと思っております。

宮内委員

ぜひこのレポートを使って、評価者との議論も、また教育委員会での議論も活発化するように、意図的に動いていただきたいと思っております。

鯉淵教育長

ほかにございますか。

中村委員

今までの委員の方々のお話と重なるところがあるのですが、先ほどの評価の観点の学力ですとか、評価規準の授業力ということは、何をもちて学力とか授業力と評価しているのかということが気になりました。特に進学指導重点校になっているということであると、大学への進学率が高いから学力がついたとか、授業力が高いと判断するのであれば、そのようなことはないと思いますが、もしそうだとしたら、これからまさに高校生たちは人生100年時代を生きていく生徒たちですから、自分の人生を豊かに、学校だけで完結する学びではないとか、いろいろなことを考えると、学力や授業力についてどのように考えているのかというのが一点気になりました。

特に、文科省がアクティブラーニングを言い始めた背景に、大学の授業のあり方の改革と、あと高校の授業のあり方の改革ということがすごく言われていましたので、そのあたりを先ほどの学力を結びつけてどういう実態なのだろうかという点が気になっています。

それから、よく間野先生が市立高校の役割というお話をされますが、金沢高校の場合は本当に市立大学が近くにあるという、非常に恵まれた環境にあります。そのあたりの連携をより一層進めていただけると、単に進学指導重点校というだけではない意味での様々な連携が図れるのではないかと思います。

すみません、感想になってしまいました。

西村高校教育
課長

ありがとうございます。授業力、学力については、本当に委員のおっしゃるとおりです。ただ、授業評価を生徒たちがどのような形で評価をしているかと申しますと、各教科についてやっております。自分について、予習・復習をしていますか、意欲的に学習に取り組んでいますか、主体的・積極的に授業に参加していますか、授業で学習した内容は理解、又は習得していると感じていますかとか、自分に関することについてもアンケートを採っております。

それから、先生方についても評価の中でありまして、学習計画や評価規準を基に進められているか、授業計画はできているかどうか、教員の熱意を生徒たちが

感じられているのかどうか、内容は理解できているか、指導技術はどうか、細かい教材研究はどうか、生徒理解はされているのかとか、細かなところで授業評価をやっています。今回の第三者評価の方々に生徒たちの授業評価をした結果についても見ていただいた上で、それぞれの項目で評価していただきました。

先生のおっしゃるとおり、まだまだ学力や授業力について、表面で見える形で点数化するのはなかなか困難なところもございますが、改善できるところは改善していきたいと思えます。

それから、金沢高校の横浜市立大学との連携につきましては、長い間かなり連携しております。生徒が高校での授業が終わった後に大学の授業を受けて、大学の単位をいただき、その単位を卒業単位にできるとか、また大学教授が直接金沢高校で、総合的な学習の時間を利用して、様々な課題の中で特別な講義をしていただくということもございます。また、高校の教員が大学生に対してもできるところはやるというような、相互の交流をしております。

以上でございます。

間野委員

特色ある学校づくりで、前回評価した方がBからAに上がっているということですが、この後Aからどうするのかということもあります。そもそも私は県立高校と比べて特色があると思いません。やはり市立高校は設置義務がない中で、市の単独予算でやっていくわけですから、歴史的に学校の数が足りないときに市がつくったというのはわかりますけれども、もっと本当にエッジの効いた特色ある学校をつくっていかうと。実際にサイエンスフロンティア高校や南高校、あるいは県立ではつukれない横浜総合高校であったり、いろいろやっているのですが、金沢高校、桜丘高校、東高校に関しては、県立高校との違いが僕はよくわかりません。

ですから、もっと本気で特色を出していくような、中長期的なプランが必要なのではないかと思えます。今、中村委員がおっしゃったように、金沢高校であれば横浜市立大学と近接しているわけですし、金沢中学校も近接していますよね。小学校はどうでしょうか。

極論で言えば、小学校から大学までの一貫校とか、そんなことを自治体でやったところは多分ないと思えます。これはかなり極論ですが、何か学校現場では解決できない、教育委員会で考える、もう少し構造的なことにもしっかりと踏み込んでいく必要があるのではないかと思えます。桜丘高校については、私はとりわけ何かアイデアがあるわけではなくて、かつては過激に統廃合まで言っていたわけですが、今は余り現実的でないと思っています。でも、いろいろな工夫があると思えますので、学校現場が与えられた条件の中でそれぞれ努力していることはよくわかるのですが、それを越えた何かというのは僕ら教育委員会で、やはり構造というものをもう少し考えていく必要があるのではないかと思いました。

感想です。

鯉淵教育長

ほかにもございますか。それでは、次に移りたいと思えます。

次に、議事日程に従い、審議案件に移ります。

まず、会議の非公開について、お諮りします。教委第33号議案「横浜市少年自然の家の指定管理者の指定に関する意見の申出について」は、議会の審議案件のため、教委第34号議案「給与の支給の遅延に係る損害賠償額の決定に関する意見の申出について」、教委第35号議案「治療費保障に係る書類作成請求調停事件の調停に関する意見の申出について」、教委第36号議案「道路陥没による自動車落輪事故に係る損害賠償額の決定に関する意見の申出について」は、訴訟等に関す

る案件のため、非公開としてよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

鯉渕教育長

それでは、教委第33号議案から教委第36号議案は、非公開といたします。審議に入る前に、事務局から、報告をお願いします。

山岸総務課長

御報告申し上げます。10月4日に個人の方1名から、会議での報告と議会での答弁との関係に関する要望書が提出されました。10月10日に1団体から、教科書採択の審議・採決の公開に関する要望書が提出されました。10月15日に1団体から、また10月17日に1団体から、学校規模の適正化等に関する上申書が提出されました。これらの要望書につきましては、事務局で対応を調整の上、教育委員会で審議が必要な場合には、次回以降にお諮りしたいと思います。委員の皆様は、内容の御確認をよろしくお願いいたします。

次回の教育委員会定例会は、11月2日金曜日の午前10時から開催する予定です。また、次回の教育委員会臨時会は、11月16日金曜日の午前10時から開催する予定です。

以上です。

鯉渕教育長

皆様、よろしいでしょうか。次回の教育委員会定例会は11月2日金曜日の午前10時から開催する予定です。

また、次回の教育委員会臨時会は11月16日金曜日の午前10時から開催する予定です。別途、通知いたしますので御確認ください。

次に、非公開案件の審議に移ります。傍聴の方は御退席願います。また、関係部長以外の方も退席してください。

<傍聴人及び関係者以外退出>

<非公開案件審議>

教委第33号議案「横浜市少年自然の家の指定管理者の指定に関する意見の申出について」

(原案のとおり承認)

教委第34号議案「給与の支給の遅延に係る損害賠償額の決定に関する意見の申出について」

(原案のとおり承認)

教委第35号議案「治療費保障に係る書類作成請求調停事件の調停に関する意見の申出について」

(原案のとおり承認)

教委第36号議案「道路陥没による自動車落輪事故に係る損害賠償額の決定に関する意見の申出について」

(原案のとおり承認)

鯉渕教育長

本日の案件は以上です。これで、本日の教育委員会定例会を閉会といたします。

[閉会時刻：午前11時50分]